

赤穂義士と山鹿

第4回

堀内伝右衛門が聞いた討ち入りの話

前回、赤穂浪士たちに対する細川家の歓待ぶりを紹介しましたが、今回は接待（接待）役の堀内伝右衛門が浪士たちから聞いた討ち入りのエピソードを紹介します。

矢田五郎右衛門の折れた刀

吉良邸内の様子が分かる話として、浪士の一人、矢田五郎右衛門が持っていた刀の話です。

「私（矢田）が持っていた刀は物打ち（中心部分）の5く6寸（約15く18cm）下で折れてしまいました。それは討ち入りの夜のこと、（吉良邸の）広間から書院へつながる廊下を通ると何者かが切りかかってきました。振り返って反撃すると一太刀目で（相手が）倒れ、二太刀目で刀が折れたのです。良く見たら（倒れた）相手の下に火鉢があったので、刀は火鉢に当たって折れたのだと分かりました。そのため相手の刀を奪ってそれを使いました」この話から吉良邸の中が真っ暗だったことが想像されます。

吉田忠左衛門が語った吉良上野介の最期

吉田忠左衛門は武芸に秀いで、人望が厚かったため、大石内蔵助に次ぐ役割の人物とされました。その忠左衛門が語った討ち入りの様子は次のとおりです。

「私（吉田）は裏門から入りました。奥座敷の近くを調べていると雪隠（便所）のような所で人の音がしたので乗り込むと、何者かが座敷のほうへと逃げ込みました。向かって行くと（吉良方の）三人が皿や茶碗、炭を投げつけてきました。浪士の一人、間十次郎が鎧で攻めかかると、年配の男の前に二人が立ちふさがったので打ち果たしました。年配の男も脇差（短刀）を

振り回してきたので、十次郎が鎧で突き倒し、首を取りました。良く見ると額に古傷と思われるものが見え、白い小袖を着ていました。その後、しっかり確認したところ、この人物が上野介殿だと分かりました。直前まで寝ていたようで布団も温かく、そばには刀だけが残っていました」

上野介殿の養子・左兵衛殿も長刀で応戦してきましたが、傷を負ったので長刀を捨てて退散していききました。夜が明けて、捨てられた長刀が立派なのを見て、左兵衛殿だったと分かりました」

忠臣蔵のドラマなどでは浪士が炭小屋に隠れていた上野介を引き出し、首を取る場面が出てきますが、実際は討ち取って初めて上野介だと確認できたようです。

大石内蔵助は討ち入りの際、浪士たちに「向かって来る者とは戦い、そうでないものは放っておけ」と命じていたため、負傷して戦いを離れた（一説には気絶していたともいわれています）左兵衛らは首を取られることはありませんでした。

今回の文章も「堀内伝右衛門覚書」をもとに作成しました。



討ち入りの様子（イメージ）

問い合わせ先：社会教育課 ☎43-1651

私だけは大丈夫!?

消費生活相談



インターネット通販 注文前に販売店の信用性を確かめましょう!

【事例】

メールマガジン紹介のサイトで、人気ブランドバッグの最新モデルが格安販売されていて、指定口座に代金を振り込んだが商品が届かない。連絡先の電話はつながらず、販売サイトも消滅していた。だまされたのだろうか。

【アドバイス】

●支払い方法が前払いやクレジットカード決済の場合、常にこのリスクがあります。注文前に、販売店の信用性の確認をしましょう。詐欺が疑われる場合は警察への相談も考えましょう。

●トラブルを防ぐ決定打はありませんが、トラブルを防ぐために次の点に注意しましょう。

①ショップの所在地、電話番号を必ず確認し、不備があるサイトとは取引しない。確実に連絡の取れる連絡先を確認する。

②支払い方法が複数用意されているショップを選ぶようにする。個人名口座への前払いでの振り込みには注意すること。

③ネットでの評判など運営実績を参考にする。※お困りの際は、消費生活センターにご相談ください。

問：山鹿市消費生活センター（商工観光課内）

☎43-1579

熊本市消費生活センター

☎096-383-0999